



那須与一伝承館通信〈第19回〉

○上杉謙信書状

今回は那須与一伝承館が収蔵する資料の中から、上杉謙信書状を紹介します。

本品は、天正二年（一五七四）霜月二十四日に上杉謙信（一五〇〇〜七八）から那須資胤（？〜一五八三？）に出された書状です。寸法は縦三四・二センチメートル、横二六・二センチメートルで、**堅切紙**（縦長に切った紙で、上杉氏などの東国大名が好んで用いたもの）という料紙に記されています。

北条氏政（一五三八〜九〇）による関宿城（千葉県野田市）攻撃を受けて、その救援のため、天正二年十月に関東に進出した謙信は、十一月七日に利根川を越え、鉢形城下（埼玉県大里郡寄居町）・成田（埼玉県行田市）・上田領（長野県上田市）などの北条方の領地を攻撃・放火していきました。この書状では、謙信は明日二十五日に小山（栃木県小山市）に進むことを伝えて、資胤に参陣を促しています。この後、資胤が謙信に従ったかどうかかわかりませんが、結局、上杉方は北条方を攻め切れず、越後に退却しました。

現在、この資料は那須与一伝承館において展示されています。ぜひご覧ください。

●上杉謙信書状

南軍関宿取詰難儀之由註進候間、為後詰令越山、去七日利根越河、鉢形城下・成田・上田領悉放火、直当陣可打立処、自深谷如注進者、氏政敗北之由候間、利根川越返、新田領令放火、向金山陣取候処、築中江申越分者、関宿取詰凶徒不追散由候間、足利・館林・新田領悉放火、一昨廿二古井名沼際江押下陣取、昨日秀綱・築中相招令談合、明日小山進陣候、左様二候得者、敵陣十五里不足二候条、明日一も一戦難計候間、片時も早々被打越、有向陣御稼簡要二候、万吉重而恐々謹言、

霜月廿四日刻申 謙信（花押）
那須修理大夫殿



上杉謙信書状
（那須家所蔵・当館寄託）

■問い合わせ

那須与一伝承館
TEL (20) 0220

彫刻

市内で作られた作品とその作者

周遊 39

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介しします。

この作品は、金田北地区公民館の南側にある植え込みの中に設置されています。

中央に顔の様な形をした円形のパーツがあり、向かって右側には顔と同じくらいの大きさの楕円形が二つ重なっています。また、左側は顔の二倍くらいの大きさのパーツがあります。顔の下には



生・記録

さかい 酒井 良 日本 2003年

6つの円が横に並んでおり、その下には4つの突起物が横に並んでいます。

作者の制作のスタイルは「まず石を眺め」「石から受

けたイメージにそって形を考える」というものです。石と自分が「直感で結びついた瞬間」に形が生れるそうです。また、「この作品の中に一番正直な今の私自身が潜んでいます」という言葉も残っています。言われてみると、中央の顔も、どことなく楽しげに見えなくもありません。



酒井 良 氏

作者は長野県出身の酒井良氏。東京造形大学美術学科を卒業後、東京や長野など日本各地のシンポジウムに参加をし、当シンポジウムに参加することになりました。現在も筑波大学で講師をするなどの活躍をされています。



■問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL (23) 8718